

無錫発中国版ユビキタスネットワーク ——「物聯網」ブーム

【新連載】「物聯網」ブームの背景と狙い・政府民間の動き



吉永欣栄（よしなが・きんえい）

東京大学工学部電気工学科研究科修了後、NRI入所。現在、NRI上海主任コンサルタント。情報通信、都市交通分野における中国事業戦略立案・実行支援、中国マーケティング戦略支援、情報通信と放送の融合に関する研究、ユビキタスネットワークに関する研究などを専攻。

本シリーズでは無錫発「物聯網」の動向を紹介する。「物聯網」最初のモデル都市である無錫市の具体的な計画や今後の展開について解説しながら、「物聯網」ブームと日本のU-Japan国家戦略の関係を分析する。第1回目の今号では、「物聯網」ブームの背景と狙い、政府民間の動きをまとめる。

中国のネットワーク強化戦略の登場

中国のICT戦略としてユビキタスが注目を浴びている。物聯網(Wu Lian Wang)がそれだ。「Internet of things」を中国語に直訳したように読めるが、センサーネットワークやM2Mなどの基盤技術に加え、電力分野や日常生活面での応用を視野に入れた取り組みの議論が活発に行われている。

09年8月、中国の温家宝首相が無錫市を訪れたときに行われた将来のネットワーク利用に関する議論のなかで、物と物の間の通信や社会基盤としてICTを活用する重要さを認識され、「感知中国」の言葉を使い、ネットワーク強化戦略の指示を出した。この背景には、IBMの「Smarter Planet Vision」をオバマ大統領が米国家戦略までに持ち上げたことに刺激されたことがあると言われている。この温家宝首相の発言により、中国中央政府、各地方政府、研究機関、通信キャリア、関連メーカーが感化され、中国国内に「物聯網」ブームが起きたのである。

物聯網の解釈については、物聯網IIセンサーネットワークという見方もあれば、物聯網IIユビキタス

ネットワークという見方もあり、混沌としている。しかし、特定のデバイスやソリューションを指しているのではなく、ネットワークの恩恵を享受する場として考えられていることは間違いない。その意味ではIBMの提唱するSmarter Planetと思想は共有しており、また日本のu-Japan戦略で提唱した社会的価値とも近い価値観をもっている。

2010年2月に開催される全国人民代表大会会議(中国の国会)で、環境問題、医療問題、エネルギー問題と並んだテーマとして、物聯網が議題の一つに取り上げられることが内定している。このことから、物聯網は、中国初のICT戦略になる可能性が高いと想定される。

物聯網をめぐる各地の動き

真つ先に動いたのは無錫市である。中国第一号の「物聯網モデル都市」の申請は09年9月中に中央政府の国務院に提出した。異例の速さで12月3日、中国政府の認定を受け、第一号物聯網モデル都市が誕生した。それに伴い、企業の代表として、三大通信キャリアがともに無錫市に物聯網研究センターを設立。センサー、ICチップ、

無線LAN技術など物聯網関連の企業数十社が無錫のセンサーネットワークセンターに集まり、本格的に物聯網の標準化、技術研究、検証実験、産業化を展開していく。

一方、中央政府も工業信息中心として「センサーネットワーク標準化委員会」を9月に発足した。政府研究機関、大学、関連企業など約60社が最終メンバーになり、NRI上海が外資企業では唯一の正式メンバーとして認定された。

無錫市以外の各地方政府も物聯網産業をこれからの第12次五カ年計画における重点領域として考えている。すでに、北京市、杭州市、濟南市、煙台市などの政府では目立った動きを見せており、特に北京市は09年11月に「物聯網産業推進連盟」を中関村に発足、12月3日には物聯網をテーマとした「感知北京」のフォーラムを開催した。杭州市でも、市長が様々な場で物聯網の推進方針を強調し、同市の物聯網産業集積の意義を提唱している。

野村総研(上海)咨询有限公司

■上海市淮海中路1010号嘉華中心29F
☎(021)5403-1122 ☎(021)5403-9891
■北京市海淀区中関村科学院南路2号融科资讯中心A座6F
☎(010)6250-9868 ☎(010)6250-9866
http://www.nri.com.cn